

一般社団法人 日本社会福祉学会 第72回秋季大会  
国際学術交流促進委員会

学術シンポジウム 国際学術交流・研究のあり方を問う

日時 2024年10月27日(日) 10:00-12:00

場所 日本福祉大学 東海キャンパス

<概要>

コロナ禍を経て、日本を含め世界全体で、オンラインでの学術交流が急速に進展しています。それに伴って、学会の国際交流のあり方は大きく変化しています。そこで、改めて学会における国際学術交流のあるべき姿を、グローバルな視点で検討したいと考えます。また、国際交流をベースとした研究(国際比較研究等)のあり方について学術的な視点から検証したいと考えております。

本学術シンポジウムでは、中国、フィンランド、日本の研究者の立場から、各々のご経験をもとに国際的な研究の取り組みと今後の国際研究の方向性についてお話を頂き、今後の国際研究に向けた取り組みへの示唆を頂く機会とします。

(国際学術交流促進委員会 委員長 本郷秀和)

スケジュール(予定)

- |       |  |
|-------|--|
| 10:00 | 開会挨拶 / 本郷 秀和 委員長(5分)   |
| 10:05 | コーディネーターによる趣旨・流れの説明、シンポジスト紹介<br>※コーディネーター：国際学術交流促進委員(2名)<br>藪長 千乃(東洋大学)、梶原 浩介(西南女学院大学) |
| 10:10 | 【中国】崔 月琴 氏(吉林大学・教授)(30分)<br>(※通訳：国際学術交流促進委員会 索 宏 委員)                                   |
| 10:40 | 【フィンランド】勝井 久代 氏(ヘルシンキ大学・教授)(30分)   |
| 11:10 | 【日本】黒木 保博 氏(長野大学・特任教授、国際学術交流促進委員会・元委員長)(30分)   |
| 11:40 | 質疑応答とコーディネーターによるまとめ  |
| 11:55 | 閉会挨拶 / 本郷 秀和 委員長(5分)   |

※ プログラムの進行上、時間は多少ずれることがありますのでご了承ください。

## 中国 話題提供者 プロフィール

さい げつきん  
崔 月琴 氏 (吉林大学・教授、哲学博士)

### 経 歴

#### 職 歴：

1983年 吉林大学学報編集、学報編集長、教授、博士課程指導教員、匡亞明特聘教授  
2023年 長春人文学院福祉学部部長、社会福祉学院院长

#### 研究及び社会貢献活動：

2004年～2016年 中国高校文科学報研究会副理事長  
2004年～2012年 吉林省高校文科学報専門委員会理事長  
2010年～2016年 吉林省民政庁社会組織審議専門家  
2023年～現在に至る 吉林省社会学学会副会長

### 研究分野

キーワード：組織社会学、社会組織、公益慈善

#### 主な研究活動：

1. 中国国家社会科学基金重大プロジェクト「社会組織管理モデルの革新と推進経路に関する研究 (2012-2018)」
2. 中国国家社会科学基金プロジェクト「新时期における中国社会管理の組織基盤に関する研究」(2009-2011)
3. 中国国家社会科学基金プロジェクト「支持性社会組織のコミュニティガバナンスへの参加における経路選択と連動メカニズムに関する研究」(2019-2024)

### 主な著書・論文等

#### 著書：

崔月琴著(1997)『企業文化学』吉林大学出版社。  
崔月琴著(2020)『転換期の社会組織』中国社会科学出版社。  
崔月琴編著(2021)『行動・拡張・革新 社会組織事例集』中国社会科学出版社。

#### 論文等：

崔月琴・袁泉(2013)「転換期における社会組織の価値要求と迷走」『南開学報(哲学社会科学版)』(03)、117-125。  
崔月琴・袁泉・王嘉淵(2014)「社会組織ガバナンス構造の転換—草の根組織におけるカリスマ現象の考察」『学習と探索』(07)、24-31。  
崔月琴・朱先平(2018)「埋め込み型財団の社会化転換の困難：組織フィールドの視点に基づく事例分析」『社会建設』5(5)、12。  
崔月琴・胡那蘇図(2019)「日本地域社会ガバナンス及びコミュニティボランティア組織発展の啓示—名古屋市「南生協」のコミュニティ参加を例として」『福建論壇：人文社会科学版』(12)、9。  
崔月琴・胡那蘇図(2020)「基層コミュニティにおける協働ガバナンスのメカニズムの借鑑と考察—日本豊田社会調査の分析に基づく」『学習と探索』(06)、24-35、191。  
崔月琴・母艶春(2024)「支持性社会組織がどのようにコミュニティガバナンスに参加するか—「愛有戲」コミュニティ公共空間のプラットフォーム化運営に基づくケーススタディ」『江蘇社会科学』(3)、122-130。

### 報告内容の概要

中国における社会福祉研究の主な発展段階を振り返り、それに関する研究動向を探求するとともに、近年の中国の社会福祉研究の主要な特徴を述べたい。また、日中間の社会福祉分野における学術交流の実態に基づき、社会福祉研究における国際協力の価値と意義を考察し、東アジアにおける社会福祉学術交流の今後の新たな可能性について展望する。

## フィンランド 話題提供者 プロフィール

勝井 久代 先生（ヘルシンキ大学・教授）

<https://researchportal.helsinki.fi/en/persons/hisayo-katsui>

### 経 歴

#### 職 歴：

2018年 8月 ヘルシンキ大学・准教授、障害学  
2023年 8月 ヘルシンキ大学・教授、障害学  
2023年 サバティカル Harvard Law School at Harvard University

#### 研究及び社会貢献活動：

2008年～現在に至る フィンランド障害学会・委員(2017年～2019年迄・委員長)  
2011年～現在に至る 北欧障害学会・フィンランド代表委員  
2012年～2014年 国連障害特別報告官の専属研究者  
2016年～2021年 Scandinavian Journal of Disability Research, Editor  
2019年～現在に至る フィンランド政府障害者の権利委員会・permanent member 、など

### 研究分野

キーワード：障害、権利、国際協力、参加型研究

主な研究活動：

中央アジア諸国、ウガンダ、エチオピア、ネパールなどの障害研究の他、フィンランド政府やEU、国際機関からの委託での障害に関する研究や各国政府との開発プロジェクト多数。

### 主な著書・論文等

#### 最新著書：

Katsui, H. and Laitinen, M. (eds.) (2024) Disability, Happiness and the Welfare State: Finland and the Nordic Model. Routledge. London. <https://www.taylorfrancis.com/books/oa-edit/10.4324/9781032685519/disability-happiness-welfare-state-hisayo-katsui-matti-laitinen> (including six co-authored chapters)  
Katsui, H. Mietola, R. Laitinen, M. Honkasilta, J. ja Ritvaniemi, A. (2023) Evävarmuutta ja vaihtelevaa osallisuutta: Selvitys ihmisoikeuksien toteutumisesta vammaisten henkilöiden arjessa. Vammaisten henkilöiden oikeuksien neuvottelukunta. Helsinki. <https://researchportal.helsinki.fi/en/publications/epavarmuutta-ja-vaihtelevaa-osallisuutta-selvitys-ihmisoikeuksien>  
Katsui, H. and Mesäisleshto, V. (eds.) (2022) Embodied Inequalities in Disability and Development. African Sun Media. Stellenbosch. (including three co-authored chapters)

#### 最新論文：

Katsui, Hisayo. (2024) Disability tax in the welfare state: Uncertainty and resentment about disability services in Finland. *Disabilities*. 2024 Volume 4, pp.413-429.  
Katsui, Hisayo and Ned, Lieketseng. (2024) Discussing models of disability and models of health in a global context. *The Routledge Handbook on Disability and Global Health*. Routledge. London. P.19-34.  
Era, Salla, Katsui, Hisayo and Kröger, Teppo. (2024) From conceptual gaps to policy dialogue: Conceptual approaches to disability in old age in ageing research and disability studies. *Social Policy and Society*. P.1-17.  
Katsui, Hisayo. (2023) Development and (Dis)Abilities. Franklin Obeng-Odoom. (ed.) *Edward Elgar Handbook on Alternative Global Development*. Edward Elgar Publishing: Cheltenham. P.289-304.

### 報告内容の概要

北欧やその他の国での研究活動を踏まえて、コロナで流動的になった国際研究の現状と可能性を、フィンランドと北欧の視点からお話します。研究で焦点を当てている障害に加え、発展途上国と言われているグローバルサウスとの不平等についても触れる予定です。

## 日本 話題提供者 プロフィール

### 黒木 保博 氏

(同志社大学名誉教授、公立大学法人長野大学特任教授、東北福祉大学客員教授  
日本社会福祉学会国際学術交流促進委員会・元委員長)

### 経 歴

<p><b>職 歴：</b> 1975年3月 同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻修士課程修了 文学修士 1978年4月～2019年3月 同志社大学文学部助手、専任講師、助教授、教授、大学院教授、2005年4月の改組再編により社会学部教授、大学院社会学研究科 教授 2020年4月～ 公立大学法人長野大学特任教授(現在に至る)</p> <p><b>研究及び社会貢献活動：</b> 1998年4月～2003年3月 日本社会事業学校連盟事務局長 2003年4月～2005年3月 社団法人日本社会福祉教育学校連盟会長、同・副会長(2005年4月～2016年3月) 2001年10月～ 日本社会福祉学会第20期渉外担当理事 2004年10月～ 同学会第21期渉外担当理事(国際) 2010年5月～ 同学会2期(通算23期)機関紙編集委員会委員長 2014年5月～ 2016年5月 同学会4期(通算25期)副会長・国外渉外担当理事、国際学術交流促進委員会・委員長 2016年5月～2018年5月 同学会5期(通算26期)副会長・国外渉外担当理事(国際学術交流促進委員会・委員長) 2016年6月～2018年5月 社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟理事、国際関係委員会委員長</p>
--

### 研究分野

<p><b>キーワード：</b> ソーシャルワーク理論、ソーシャル・グループワーク、国際社会福祉論 <b>主な研究活動：</b> グループ活用によるソーシャルワーク実践、専門職者養成教育のあり方</p>
---

### 主な著書・論文等

<p><b>著書：</b> 黒木保博監修 中嶋和夫・近藤理恵編著(2018)『世界の子どもの貧困対策と福祉関連QOL 日本、韓国、イギリス、アメリカ、ドイツ』学文社 等</p> <p><b>論文等：</b> 孟凌鍋・黒木保博・中嶋和夫(2017)「日韓の高齢者における日常生活ストレス認知と自殺念慮の関連」『社会福祉学』Vol157、No4 他</p>
--

### 報告内容の概要

<p>この学術シンポジウムでは、本学会における国際学術交流のあるべき姿をグローバルな視点から検討したい。まず、1. 日本社会福祉学会の国際学術交流のあゆみをふり返りたい。2. 次にわが国の国際研究の特徴を明らかにする。3. 日本学術会議の国際学術交流のあり方から整理する。4. 学会としては、今後、どのような国際貢献に取り組んでいくべきか、について報告したい。</p>
--

## 質問用紙（回収用）

日本社会福祉学会 国際学術交流促進委員会主催  
日本社会福祉学会第 72 回秋季大会 学術シンポジウム  
テーマ：国際学術交流・研究のあり方を問う

シンポジスト（話題提供者）の方のご報告を聞いてのご質問をお寄せください。その際、どの話題提供者に対するご質問なのかをわかるように、本紙回答欄(下記内容)に直接ご記入ください。回答終了後、コーディネーターにご提出してください。

なお、ご質問が多数になる場合は、お時間の範囲内で対応させて頂きたいと思えます。ご理解のほど、どうぞよろしくお願い致します。

① シンポジスト（話題提供者）の氏名（○をつけてください）

崔 月琴 氏 ・ 勝井 久代 氏 ・ 黒木 保博 氏 ・ 全 員

② ご質問の内容

ご協力ありがとうございました。